

先住民族の「語り」が博物館展示になるまで —アイヌ民族のライフストーリー関連展示を事例に—

張惟理

要旨

近年、アイヌ文化の発信事業や関連メディアが活発化し、国内におけるアイヌ民族への認知度は向上する一方で、その表象のあり方をめぐっては、依然としてさまざまな議論が行われている。こうした中、行政が主導するアイヌ民族関連事業の重要な拠点であり、同時に一種のメディアとしても位置付けられる博物館は、これらの議論の中心的な場であり続けてきた。これまでに指摘されてきた課題に応答するかたちで、近年の博物館展示では、アイヌ民族全体で論じるのではなく、特定の個人に焦点を当てた展示が増えつつある。そこでは、さらにアイヌ民族の個人による口述の「語り」や、書き残された言葉を取り入れるという試みを行う展示も見られている。

本論文は、これらの展示事例を「ライフストーリー展示」として位置付け、ライフストーリー論を用いて考察するものである。とりわけ、展示制作のプロセスに注目し、それを調査・分析することによって、ライフストーリー展示のプロセスのあり方と、「語り」という実践における個人・博物館・社会のあいだの相互関係を明らかにすることを目的とする。

第一章の先行研究の検討では、まず博物館における先住民族の歴史・文化展示をめぐる議論を整理したうえで、ライフストーリー論および物語（ナラティブ）論の理論的枠組みを概観し、社会学や質的研究におけるライフストーリー論が、フォーラムとしての博物館に應用される可能性について論じた。次に、現代の博物館における「語り」の位置付けとその実践を検討し、博物館における「語り」の政治性が十分に重視されていないという、先行研究および現行の博物館の取り組みの共通課題を指摘した。

第二章から第四章では、各調査対象事例について、聞き取り調査の結果をもとに分析を行った。調査は、国立アイヌ民族博物館の基本展示「ネプキ 私たちのしごと」、特別展「“アウタリオピッタ”アイヌ文学の近代—バチラー八重子、遼星北斗、森竹竹市—」、平取町立二風谷アイヌ文化博物館の企画展「エカシの記憶を辿って～昭和のアイヌの暮らし～」、特別展「沙流川流域のウエペケレ」、特別展「沙流に伝わるアイヌの着物の継承—想いと技と—」、及び知里幸恵 銀のしずく記念館の常設展示という、規模や展示アプローチの異なる三つの博物館で開催された・現在展示されている六つの展示を対象に実施した。調査対象となる六つの展示については、「展示コンセプト・目的」「人選・コンタクト」「『語り』の収集・記録」「展示への反映」「展示の反響」という五つの観点から調査結果を整理した¹。これにより、各博物館の方針や展示制作における取り組み、ならびに先住民族の「語り」に対する位置付けを明らかにした。

第五章の考察では、第一章から第三章で行った事例調査の成果を踏まえ、各博物館の展示制作プロセスを横断的に分析し、ライフストーリー展示のプロセスのあり方を明らかにし、「語り」を扱う展示が、いかにして博物館をフォーラム的な場として形づけているのかを示した。

次に、分析の視点を語り手と博物館の関係からさらに広げ、ライフストーリー論および物語論的分析を通じて、各博物館・各展示が主としていかなるストーリー（ナラティブ）を創出しているのかを推論し、それらが社会の中でどのように位置付けられうるのかを検討した。博物館展示に

¹ なお、特別展『“アウタリオピッタ” アイヌ文学の近代 —バチラー八重子、遼星北斗、森竹竹市—』や知里幸恵 銀のしずく記念館の常設展示などといった故人を対象とした展示では、本人へのコンタクトという過程が存在しないため、「人選・コンタクト」の項目は省いた。

において、「語り」がなんのために、どのように語られ、どのように受容されるのかを具体的に示すことにより、博物館、さらには社会やコミュニティのあり方がどのようにアイヌ民族の「語り」と関係し合うのかを提示した。

そして本章の終わりに、「語り」を扱うことの意義について論じた。焦点を語り手自身に立ち戻し、ライフストーリー論および物語論の視点から、博物館展示における「語り」の実践と展示の受容が語り手に与える意味を改めて問い直した。これにより、博物館がアイヌ民族の歴史的トラウマの回復にどのように寄与しうるかを提示した。

最後に結論では、本研究の内容をまとめた上、本研究の限界と今後の課題を示した。

以上を踏まえ、本研究では、博物館が展示の制作プロセスや展示後の受容・反響にも目を向け、「語り」をめぐる多様な文脈を継続的に問い直すことの重要性を明らかにした。こうした実践は、語り手、聞き手としての博物館職員、そして受容者である市民の三者に新たな気づきと理解をもたらすとともに、博物館がアイヌ民族のストーリーを共有・共創する場となりうる可能性を示している。